

兵庫県資源循環推進計画策定に向けた部会委員のご意見

番号	ご意見	対応	対応箇所
1	目次を整えてはどうか。 例えば第3章、第2節食品ロスの「2 食品ロス削減の目標」が上がっているが、プラスチックの目次には、中身には指標が記載されているのにもかかわらず目標の項目がない。	「第3章 第1節 2 プラスチック使用削減・資源循環の中長期的方向性」のタイトルに（重点取組・対策指標）を追記し、当該箇所を修正しました。	目次、p16
2	ビジョンを廃棄物処理計画と統合することで、ビジョンがなくなるともとられ、「循環」の観点が弱くなるイメージとなる。循環社会ビジョンはそれとして改定すべきなのでは。 廃棄物処理計画の改定と合わせて、資源循環計画（前段の資源循環の方向性等の部分）も改定すべき。	「循環社会の方向性」として、長期的に目指す社会である2050年頃の「資源循環・脱炭素・自然共生社会」の姿を示すとともに、2050年頃を見据えて取組を加速していくべき、2030年頃の中期的な資源循環の施策を示すことで改定しております。 あわせて「2030年頃に向け、これらの施策に加速的に取り組み、その状況を点検・評価していく。そして、2030年頃にそれまでの取組の成果を踏まえ、2050年頃に向けた次の20年に達成すべき施策の内容を改めて設定していく。」と記載していますが、「第4章 廃棄物処理計画」の見直しのタイミングにあわせて検討します。	p 1～2, p 8
3	循環が脱炭素にどれだけ貢献できるか。目的は廃棄物の減量化。それを達成しながらいかにCO ₂ を減らすか。	それらの趣旨については、主に「カーボンニュートラルの達成」「循環経済、カーボンニュートラルに資する廃棄物処理・資源循環システム、循環産業の構築」「カーボンニュートラル・環境負荷の低減・自然生態系との共生の取組の促進」に記載しています。	p 7、9、55、63
4	真庭市や西粟倉村では、バイオマス活用を進め、し尿などもあわせてメタン発酵、肥料として農地還元、地域の脱炭素・資源循環形成に取り組んでいる。P10の「④地域における多面的価値の創出」として、バイオマスの活用の点を強調すべきである。	文中に「森林資源や有機性廃棄物等のバイオマスを地域での資源として捉え、エネルギーや肥料として循環利用する。」を記載し、取組主体に県民を追記しました。	p10、p63
5	今後、若い力が必要である。万博のテーマを利用して、タウンミーティング等を開催し、高校生などの若い世代と自治体の長等が意見交換することで、資源循環が進めばよい。	「③啓発、環境学習・教育の充実」で、子供から大人まで、幅広い世代を対象とした啓発に取り組む。特に、次世代を担う若者や子供に対して、SNS等のIT技術を活用した周知に取り組む。」に修正しました。	p11
6	プラスチック資源循環戦略については記載があるようだが、大阪ブルー・オーシャン・ビジョンについての記載がないのでは。理念の共有を市民の方としておくべきと思う。	第3章第1節「(2) 国の動き」の中で「令和元年6月のG20大阪サミットでは、新興国・途上国を含めた取組の第一歩として、2050年までに追加的な汚染をゼロにすることを目指す「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」が共有された。（令和5年4月開催のG7札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合、5月開催のG7広島サミットでは、10年前倒しとなる2040年までに追加的なプラスチック汚染をゼロにすることが合意された。）」を追記しました。	p13

7	食品ロスについて、市が市内の普及啓発を主体的に行うが、県はどのような役割を担うのか。	第3章第2節「(3) 県の取組」の推進体制、取組内容に記載の通り、全庁関係各課で食品ロス削減施策を総合的に推進します。	p23
8	東播磨2市2町の広域化はうまくいった例を示してはどうか。	コラムを追記しました。	p70、コラム13
9	SDGsの考え方が世の中に浸透してきている。本編のp.2に計画に関連するSDGsの目標をあげているが、概要版にはあがっていない。 若い人には特に浸透していることもあるので、一般の方がわかりやすいという観点からも、概要版にも何らかの記載をしてはどうか。	概要版の最初のページにSDGsを追記しました。	概要版
10	前半の資源循環の流れがあって、4章の廃棄物処理計画につながる。密接不可分なものである。 資源循環計画全体が法定計画ではないのか。	資源循環計画全体が法定計画です。「第4章 廃棄物処理計画」の部分に廃棄物処理法第5条の5に規定する事項を記載しています。	